

# おもてなしの心で数々の非日常性を追求する老舗旅館

株式会社さこや 奈良県吉野町

桜の名所として国内外で有名な吉野山は、桜の季節以外にも、夏は新緑、秋は紅葉、冬は雪景色と四季折々の情緒が堪能できる。また、源義経や南朝など、いにしえより多くの歴史舞台となった場所でもある。

このような絶好の場所にあって、さこやは創業280年の伝統に新しいセンスをうまく調和させ、多くの宿泊客を受け入れている老舗旅館である。

## 会社概要



女将：大村 成子

会社名：株式会社さこや  
所在地：奈良県吉野郡吉野町  
吉野山 2620  
電話：07463-2-5155  
FAX：07463-2-3002  
代表者：代表取締役社長 大村 陽  
女将 大村 成子  
資本金：1,000万円  
従業員：12名  
事業：旅館業  
URL：<http://www.sakoya.co.jp/>



## 創業280年の伝統ある老舗旅館を背負って

さこやの創業は約280年前、もともとは吉野山に修行で訪れた行者をもてなす宿として創業した。その後は数々の文人墨客の定宿として親しまれて

きた。館内に飾られている頼山陽、伊藤博文、東郷平八郎などの直筆の書や宿帳が伝統の重さを伝えている。

現女将の大村成子<sup>まさこ</sup>氏が女将になったのは約45年前、当時20代前半だった。先代の女将の急逝を受けたものだが、嫁いでまだ間がなく、旅館業のイロハもわからない時だったから、老舗旅館の暖簾を背負うのは大変荷が重かった。

しかし、バイタリティあふれる女将は旅行会社やバス会社などへ積極的に売り込みをかけた。東海道新幹線の開通や大阪万博の開催など京阪神や首都圏で何かイベントがあるとすぐにとんでいった。その甲斐あってか、さこやの認知度がアップし、たくさんのお客が日帰りや宿泊で来てくれたという。

## 伝統と新しいセンスの調和そして「おもてなし」の心

かつて著名人たちに親しまれ、栄えた宿は、今では長年の伝統や歴史を多く残しつつも、時代を先取りした新しいセンスも巧みに取り入れ、あらゆる年代層の顧客に受け入れられる宿となっている。

「ここへくるまでの道のりは険しかったけれど、お客様に喜んでいただくのがいちばんで、その一心で頑張ってきました」と女将は45年間を振り返る。

また、宿泊客に「『来てよかった』と喜んでいただくには旅館の個性と人情味あるサービスが最も大事」と女将は自信を持って語る。多くの人に認めもらう秘訣は「おもてなし」の心にあるとも言う。

最近、旅行の形態は団体中心から小グループへそして個人へと変化をみせている。従業員もこの流れに対応できるよう育成が必要である。昼食時に行われるミーティングでは、「私たちは人を満足させる商売だから、常にプライドを持ち、プロ意識に徹しましょう」と接客態度の評価は厳しい。

今やホテルでは当然だが、老舗の旅館でさえも、

バス、トイレ、冷暖房、ウォシュレット付きの部屋を求める宿泊客が多くなってきている。さこやでもいち早くこういった顧客ニーズに対応している。一方で、建物は木の温もりを大切にと考え全館吉野杉、吉野檜の純和風で作られている。「これからも鉄筋にすることはなく、ずっと木造でいくつもりです（大村女将）」。

また、観光客は旅館に「非日常性」を求めてやってくるから、その「非日常性」を追求して、今のニーズに合った仕様を次々と演出している。

日本初の貸切露天風呂となった「四季の湯」は湯船から床、桶、風呂椅子に到るまですべて最高級の高野槇を使用している。そのほか、ゆったりのおんびり自分たちだけの時間を満喫できる露天風呂付客室や森林の中で朝食が食べられ、十分に吉野の自然を満喫させてくれる「ガーデンテラス」（4月～11月）など新しいセンスを取り入れ、やすらぎとくつろぎのある宿を作り出している。

また、吉野で過ごす楽しいひとときに欠かせないのが料理である。さこやでは吉野の名産である葛はいぼらを使った葛豆腐や榛原牛、吉野川でとれた桜鮎など、地元でとれた食材をふんだんに使い、季節の味覚を盛り込んだこだわりのある料理を提供している。



「四季の湯」と「ガーデンテラス」

数ある「おもてなし」の中で特筆すべきは「静の湯」であろう。源義経と離別を余儀なくされた静御前にちなんで『静の湯』と名付けられた露天風呂は槇づくりの大きなたらい形の湯船。下には

砂利が敷き詰めてあり風情を感じさせる。さらに、「静の湯」では地酒「やたがらす」の樽酒を無料でいただけるという楽しみもある。槇の風呂にゆったりとつかりながら味わう升酒は贅沢の極み、旅の疲れを癒してくれる。

吉野は桜の時期は言うまでもなく、四季折々に景色を楽しむことができる。また世界遺産にも登録され、さらに温泉が加わるとなれば条件は抜群である。

そういった理由もあり温泉の掘削を思いついた。調査から掘削まですべて自前で行い、地下910mにあった源泉を掘り当てた。吉野地区で初めてとなった温泉は、2005年6月から『静の湯』の露天風呂にかけ流し方式で提供されている。



静の湯

## 今後の展開

女将は日々の女将業に加え、吉野地区全体の観光振興にも尽くしてきた。気さくな人柄とバイタリティ溢れる経営手腕で同業者や顧客など、周りからの信頼も厚く、全国の女将が一堂に会する「女将サミット」の副会長も務めている。

また、「さこやファン」も多く、常連有志が作る「さこやファンクラブ」が結成され、昨年、結成10周年を迎えた。会員は600名以上で年1回の会合には必ず100名以上は参加するのだという。

常に先を見据え、新しい企画を考えている女将に次の取り組みは何かと尋ねると、『エステ』や『陶芸体験』に昼の食事を組み合わせた日帰り観光」という答えが返ってきた。女将のさらなる「おもてなし」の企画が待ち遠しい。（丸尾）